

(新) 廃棄物処理システムにおける温室効果ガス排出抑制対策推進事業
(エネ特会) 50百万円(0百万円)

廃棄物・リサイクル対策部 廃棄物対策課

1. 事業の概要

廃棄物分野においては、廃棄物発電等によるエネルギー回収を差し引いた温室効果ガス排出量が基準年比で7.3%増加している状況にある。平成20年度から始まる京都議定書目標達成計画の第一約束期間を控え、本分野においても、これまでの対策に加え、第一約束期間の目標達成に資する追加的な対策が直ちに求められているところであるため、以下のような事業を行う。

- ・ 廃棄物処理に伴う温室効果ガスの削減可能分野及び削減可能量の調査
- ・ 温室効果ガスの追加的な削減方策の調査、検討（技術評価と費用対効果の評価）
- ・ 抜本的な削減方策モデル実証の実施
- ・ 本実証結果を踏まえ、廃棄物処理施設における温暖化対策事業でのメニュー化や、普及事業を行う専門技術支援チームの派遣等の実施

2. 事業計画

平成20年度

- ・ 廃棄物処理プロセスにおける温室効果ガス排出実態の調査
- ・ 現状調査や専門委員会における方策の評価・検討

平成21年度

- ・ 廃棄物処理プロセスにおける温室効果ガス排出実態の調査
- ・ 現状調査や専門委員会における方策の評価・検討
- ・ モデル実証
- ・ 専門技術支援チームの結成

平成22年度

- ・ モデル実証の結果の評価
- ・ 専門技術支援チームの派遣、温暖化対策事業のメニュー化等による普及

3. 施策の効果

廃棄物分野において、温室効果ガス排出量削減対策を検討・実証すると共に、その成果を普及することにより、京都議定書目標達成計画における数値目標の達成に貢献する。

4. 備考

調査費 50,000千円

(内訳) 廃棄物処理に伴う温室効果ガスの排出状況の把握方法の調査

25,000千円

温室効果ガスの抜本的な発生源別削減方策の調査

25,000千円

廃棄物処理システムにおける温室効果ガス排出抑制対策推進事業

地球温暖化対策が急務となっている中、
廃棄物分野における温室効果ガスの排出量は増加傾向
(平成17年度において前年度比7.8%増)



京都議定書目標達成計画第一約束期間の
目標達成に資する廃棄物分野での対策が必要！

各廃棄物処理プロセスにおける温室効果ガス排出実態調査

実態調査を踏まえた具体的対策の評価・検討、モデル実証

- ・市町村合併・広域化に伴う収集・運搬の効率化
- ・中低温排熱の新しい熱利用システム
- ・ごみの低カロリー化に対応した焼却施設の運転方法の改善 etc...

検討結果を普及することにより、第一約束期間の目標達成に貢献